

2008選評

美術というものは不思議なものである。テクニックがあることに越したことはないが、それだけで芸術として成立するわけではない。惹き付けられ、印象に残る作品には何かが備わっている。その何ものかの正体を明らかにすることは、人間というものの本性を見きわめることと同じくらいに難しい。だからこそ、芸術作品を自ら作ってみることの価値がある。

私は、脳科学の研究の一環として、人間にとて美とは何かということについて「クオリア」(意識の中で感じる質感)という視点から探究してきた。数年前からは東京芸術大学で講義している。難関を突破した芸大生でも、アーティストとして成功するのは十年に一人も出れば良いとされる。何の保証もない。だからこそ、自由がある。芸術の世界は厳しいからこそ、そこには容易には尽くせぬ喜びがあるのである。

いわき市立美術館は現代美術作品のコレクションにおいて日本国内のトップを走ってきた。今回で37回を迎えるいわき市民美術展覧会は、毎年異なる審査員が自らの基準で入選作を決めるという先駆的な試みをしてきた。その方針が浸透しているのだろう。今年も、素晴らしい作品が集まった。

齋藤弘美さんの「生家(一枚の写真より)」は、庭先で魚を箱詰めするというモティーフを扱って、奥行きのある忘れがたい印象を残す。前面で作業をする女性たちと、背景の男性たちの色彩のコントラストが効果的である。多くの人を描いていながら、構図的に破綻していない。ゲルハルト・リヒターの作品に見られるような、存在するものと過ぎ去りしものの行き交いさえも予感させる。

ダビさんの「Untitled」は、繊細な模様を描いてそれを水滴で降下させる思い切りの良い趣向に惹き付けられる。しかも、とびっきり美しいのだ。吉田重信さんの「重陽」は、現代美術に不可欠な批評性における国際水準の作り込みに成功した。さらなる飛躍に期待したい。

個人的な話になるが、いわき市には叔父が住んでいる。ゆかりの地に美術の花が大きく咲いていることを誇りに思う。

2008年2月6日

審査員 茂木 健一郎
(脳科学者)

第37回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	生家(一枚の写真より)	齋藤 弘美	小名浜
いわき市議会議長賞	Untitled	ダビ	東京都
いわき市教育委員会教育長賞	重陽	吉田 重信	平下荒川
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	水門	大川 浩	三沢町
いわき市文化協会会长賞	時の記憶	江尻 るみ子	郷ヶ丘
福島県報徳社賞	サンバナ	仲野 亜加音	四倉町山田小湊
ク	鉄の擦り切れた刃	吉田 四郎	小川町柴原
ク	廃船	伊藤 一朗	平鎌田
美術館友の会賞	候忽譚	田辺 恭臣	平
有限会社トーカイ賞	大地の響	星野 公子	錦町
株式会社箱崎美術広告社賞	鶴の島、いわき、サン・マリーナ	川島 見	小名浜大原
有限会社平電子印刷所賞	水の流れⅡ	山本 伸樹	田人町旅人
椿屋賞	Flower	渡辺 啓	四倉町
ク	クランベリータウン郊外	大平 洋一	勿来町
昭文堂賞	食鬼	中田 俊一	江名
ク	共生 - こども	根本 裕之	平泉崎
画廊喫茶モナミ賞	ガーナ印象	清水 ナミ子	山田町
ギャラリー磐城賞	射手座の少年	佐藤 綾子	中央台
株式会社坂本紙店賞	うでまくら	小野 重治	金山町
アートスペース泉賞	四季のうつろい	根守 キヌ子	平
《特別賞》			
青少年(アートスペースエリコーナ)賞	卒業	中澤 あこ	好間町小谷作
青少年(ギャラリーわづくりや)賞	染められて	古市 寿賀子	双葉郡楳葉町大字下小塙
TSC青少年奨励賞	Untitled	ダビ	東京都
ク	サンバナ	仲野 亜加音	四倉町山田小湊
いわき市立美術館長賞	水棲之譜	石川 進	平上片寄

☆いわき市立美術館長賞は、無鑑査作品を対象に美術館長が審査し、決定します。

TSC青少年奨励賞は、平サロン俱楽部のいわきの美術を志す青少年育成の趣旨に基づき25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与されます。

青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となります。

2009選評

芸術に限らず、私は「品格」という事を大切に考えている。「品格」とは何か……。清らかで強い魂を内在してつくられたものに品格がそなわるのではないか。つまり、作品をつくる作家の人間力が問われる。作家に品格がなければ作品に「品格」は具現化されない。

しかしいくら品格をそなえた人でも、確かな表現力がなければ、他者の心をゆさぶる作品は生み出せない。

つくり手の人間性とそれを表現しうる確かな技術力があいまって始めてすばらしい作品は生まれるのである。さらに言うなら、それだけでもまだ不十分である。たゆみない、正しい方向性の努力があって、ときに美の神からのご加護があって初めて時間と空間のふるいに残ることのできる作品が生まれるのではないか。正にそれこそが「芸術作品」と呼ぶのにふさわしいものではないだろうか（それには古今東西もジャンルもない）。

今回の出展作品を拝観して、せっかくいい感性を持っているのにそれを表現する技術がまだ未成熟なものが大変多かった事を残念に思った。しかしこれは努力で少しづつ得ることのできるものなので、是非がんばっていただきたい。

また逆に技術は相当の域に達しているのだがもう一つ魂のエネルギーが弱いものがあった。

市長賞に選した渡辺啓さんの「フラー」という作品も〈時代の息吹き〉、〈色彩感覚〉、〈個性的な表現力〉という点では群を抜いていると感じたので選ばせていただいたが、惜しむらくは、もう一つ魂の強さが感じられたら、さらによい作品になると思った。他の作品も順位をつけるのが大変困難で、差はほとんどないと言っていいほどだった。

もう一度原点にたち返って自分を見詰めなおし、自分の作品も客観的に観賞しなおして、これからどうしたらもっといい作品がつくれるか、考えてみてほしい。

いわきには、すばらしい自然と世界レベルと十分いえる質の高いコレクションがある。その中に身を置いて五感をとぎ澄ますと、すばらしい考えが浮かぶかもしれない。

次に出会える時が楽しみである。

2009年2月11日

審査員 塚田 晴可
(ギャラリー無境主人)

第38回

絵画・彫塑の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	FLOWER	渡辺 啓	四倉町
いわき市議会議長賞	あゆみさん	根守 キヌ子	平
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	原 風 景	渡辺 八市	平中山

《佳作》

いわき市文化協会会长賞	たいさんぼく	小野 重治	金山町
福島県報徳社賞	地上の出来事	山本 伸樹	田人町旅人
ク	二つの版画技法による 「至福の一服」	下山田 晴彦	平北白土
ク	時は流れる	佐々木 寿子	錦町
美術館友の会賞	玄黄記 09-02	吉田 成寿	小名浜下神白
有限会社トーカイ賞	屈折と紅い気泡	森 二郎	中央台
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	女 (ひと)	平子 貞男	小川町上小川
有限会社平電子 印 刷 所 賞	錆びた船体	今泉 木主	錦町
椿屋賞	will	ダビ	平
ク	風のささやき	根本 正辰	平中平窪
昭文堂賞	JAZZY - DRAGON	鈴木 義則	平豊間
ク	パネルの上の細長い宇宙	安藤 栄作	久之浜町久之浜
画廊喫茶モナミ賞	街の表情	上野 邦彦	金山町
ギャラリー磐城賞	婦人	遊木 千代人	平北白土
株式会社坂本紙店賞	響	安部 國雄	小名浜玉川町
アートスペース泉賞	セーヌ河岸	仲野 亜加音	四倉町山田小湊
アートスペースエリコーナ賞	雪の華	難波 立子	遠野町入遠野

《特別賞》

青少年(ギャラリー わづくりや)賞	worry	田原 かおり	内郷高坂町
TSC青少年奨励賞	will	ダビ	平

☆TSC青少年奨励賞は、平サロン俱楽部のいわきの美術を志す青少年育成の趣旨に基づき25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

佳作本数 17本

2010選評

応募作品の全体印象としては、抽象作品が少なく、イメージを自由に描いた半抽象的傾向の絵が多く見受けられました。しかし、少なかった抽象作品の中に秀作が多かったことは新鮮な驚きでした。

時代の流行や傾向を越えて、確かな技術と、画面いっぱいに思い切りよく「マテーラの洞窟住居」を描いた蛭田誠さんの作品は魅力的でした。マチエール（絵肌）や色彩も明るく、安定した絵画技術の大切さを充分感じさせてくれると思います。

赤色の鮮やかな平子貞男さんの「R-62N（景）」は抽象作品の中の秀作であったと思います。題名に（景）とあるのは、抽象傾向でありながら、作者のイメージに具体的なものなどがあったと思われ、そのことを推察しながら作品を見る楽しみを感じさせてくれるのではないかでしょうか。

根本知樹さんの木彫作品「T·o·m·b·o」は、木の持つやさしい感触を残すノミの跡が心地良く、おとぎの国のトンボのようにも思えて、しかも彫刻作品であるという作品印象もシッカリ感じさせます。

出品作品の中で最大サイズ（150号）と思われる草野怜子さんの「記憶」は、キャンバスの大きさに臆することなく、ノビノビと描かれた人物画ですが、無造作のように見えて、配色や絵具の使い方に技量が感じられます。作者は、絵の中の人物を描くことによって、自分自身の“記憶”を問い合わせているのでしょうか。

青少年賞となった「無題」の植田千尋さんや「知識。」の仲野早由利さんなど、若い出品者の方々の作品内容が良く、美術など芸術分野の大切さを強く思う私にとっては頼もしいことでした。

2010年2月10日

審査員 大津英敏
(洋画家・多摩美術大学教授)

第39回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	マテーラの洞窟住居	蛭田 誠	小名浜
いわき市議会議長賞	R-62N（景）	平子 貞男	小川町上小川
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	T·o·m·b·o	根 本 知樹	平中平窪
《佳 作》			
いわき市文化協会会长賞	記 憶	草 野 怜 子	泉玉露
福島県報徳社賞	WORK 2010-1	渡 辺 啓	四倉町
〃	ハルノクニ	志 賀 ありさ	勿来町
〃	今	山 崎 愛 奈	小名浜大原
美術館友の会賞	太郎とボスとじい	小 野 忠 男	勿来町
有限会社トーカイ賞	猫 の ひ な 祭 り	会 田 光 子	中央台
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	防波堤 - 景 -	根 本 裕 之	平泉崎
有限会社平電子 印 刷 所 賞	鎌彫画～考古学上のポップアート～	加 賀 充	平
椿 屋 賞	時 の 音 ・ 時 の 色	佐々木 寿 子	錦町
〃	ニューハウンのカフェ（デンマーク）	桐 生 良 勝	石森
昭 文 堂 賞	耳 を す ま し て	平 子 貞 男	小川町上小川
〃	知 識 。	仲 野 早 由 利	四倉町山田小湊
画廊喫茶モナミ賞	MOLA MOLA	庄 司 重 夫	東田町
ギャラリー磐城賞	月 の 組 曲	下 山 田 晴 彦	平北白土
アートスペース泉賞	ま ど ろ み	廣 川 則 子	平中神谷
アートスペースエリコーナ賞	臨 在 の 光	吉 田 重 信	平下荒川
《特 別 賞》			
青少年（ギャラリー わづくりや）賞	無	植 田 千 尋	四倉町薬王寺
青少年奨励（美術館友の会）賞	T·o·m·b·o	根 本 知樹	平中平窪

☆青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

青少年奨励賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

2011 審査にあたって

いわき市は初めての街である。

この、いわき市が、40年にわたって、市民の芸術的エネルギーを引き出す役割を果たす「市民美術展」を継続して来たということに、率直に敬意を表したいと思う。

同時に、この市が持つ、有数の国際的現代美術のコレクションが、この土地の人々の創造的活動に、どのように活かされているのかということも、私の関心事のひとつであった。

いずれにしても、展覧会の審査を引き受けるということは、未知の才能に出会うことへの期待と不安とが共にあり、何より自分自身が試されることだと思っている。

私自身、長い間、絵を描き続けて来て、最近、思うことは、「人は何故、絵を描くのか?」ということである。絵の世界に暮らしている間に、いつの間にか、「絵の常識」の中に埋没してしまっていないかを疑ってみなければならないと思う。

「描かずにはいられない」という初発的な感動に促されて描き始めているか。最後まで、自分の眼、自分の感性に従って描き進められているか。そういうことを基準にして、今回の審査に当たったつもりである。

そうした基準を超える数多くの作品に出会えたことは、嬉しいことであった。

木下淑之さんの「ゆずり葉(神降ろし)」はイメージの独創性と表現力に優れ、強いインパクトを放っている。

小野重治さんの「おちば」は、写実的な手法ながら、枯葉と少年の単純な構図の中に集中力を高めて、画面の緊張感を保っている。

会田光子さんの「猫まんだら」は、画面左側に隙がないとは言えないが、色と形に、極めて個性的な表現が見られ、「描くこと」の喜びが伝わってくる。

「寄生バエとイモムシ」を描いた渡辺洵さんは、高校生のことだが、虫らしい生物が大胆な色彩とダイナミックな構成で、若者らしい伸び伸びした感性が伝わってくる。

その他の大作の中にも情感豊かな作品が多く見られたが、私は、特に小品でも、誠実に、自分の眼を対象に向けたもの、版画作品にあっても、大声で叫ばずとも、澄んだ小さな声にも耳をかたむけるよう心掛けたつもりである。

絵画作品は総じて、レベルが高いと感じたが、対象に対する謙虚な姿勢、絵の具その他素材の美しさを大切にする態度が一層、望まれる。

彫刻については、全体的に決してレベルが高いとは言えないが、対象に向かって、誠実な姿勢を感じられ、何より、これだけ多くの出品者がいることが、今後に向かって心強いことと思われる。

2011年2月9日

審査員 入 江 観

(洋画家・女子美術大学名誉教授)

第40回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	ゆずり葉(神降ろし)	木下 淑之	小名浜
いわき市議会議長賞	おちば	小野 重治	金山町
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	猫まんだら	会田 光子	中央台
《佳 作》			
いわき市文化協会会长賞	寄生バエとイモムシ	渡辺 淳	勿来町
(財)福島県報徳社賞	生きる	根本 知樹	平中平窪
"	赤い大地	柳内 侑子	平
"	しゅうさく君の家	金山 哲也	郷ヶ丘
美術館友の会賞	私風景	荒川 信子	平
有限会社トーカイ賞	あの日、見上げた空	安藤 沙羅	久之浜町久之浜
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	六月の五浦	田中 英子	桜ヶ丘
有限会社平電子印刷所賞	たましいのゆくえ	吉田 勉子	四倉町上仁井田
椿屋賞	頭像(あけみさん)	根守 キヌ子	平
"	ひかり	根本 裕之	平泉崎
昭文堂賞	SING SING	箱崎りえ	植田町
"	WATER COLOR II	鈴木 秀治	久之浜町末続
画廊喫茶モナミ賞	天にいのる	安齋 歩見	平中神谷
ギャラリー磐城賞	宇宙	四家 友幸	内郷綴町
アートスペース泉賞	想像力	仲野 早由利	四倉町山田小湊
アートスペースエリコーナ賞	たゆたう・ひかり	嶺崎 茂子	小名浜岡小名
《特 別 賞》			
青少年(ギャラリー わづくりや)賞	坂	坂本 麻里	双葉郡楢葉町井出
青少年奨励(美術館友の会)賞	寄生バエとイモムシ	渡辺 淳	勿来町

☆青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

青少年奨励賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

2012 審査にあたって

いわき市民美術展覧会の審査をと電話をいただいた時、簡単なことともちろん考えていたわけではない。しかしその日が近づくにつれ、いつも以上に緊張し、昨年の大震災に遭われた地域の人たちが制作する美術と、どう向きあえば良いのだろうという気持ちが、心の中に大きく広がっていった。

絵画や彫刻を制作するということは、自身の感情を通過した哲学の表出だろう。今回の大震災を体験し、多くの人の心に、重たいものが沈殿したはずである。それを表現することで、社会を告発したり、あるいは自分が救われたり、その作品を見た人が救われることはとても大切なことだろう。実際、直接的にせよ、間接的にせよ、出品作品の中に震災をテーマにしたものも数多くあった。土地柄からか海をモチーフにした絵画も多かった。

いわき市長賞・大川浩さんの「明日へ吹く風」は存在感のある絵である。実際の写生なのか、作者の創作なのか解らないが、また震災をテーマにしたものかどうかも不明だが、テトラポットの在りようが私には、津波とその力、人間の無力を感じさせた。無理に説明していないことが、より見るものに語りかけてくる。シュールレアリズム絵画のようであり、秀作と思った。次点の、木下淑之さんの「昼夜来狐」は、狐を擬人化し、浜辺で今回の津波と放射能の災害を物語化している。批判精神に富み、その独特なスタイルは、魅力的である。清水ナミ子さんの「悠久の刻」も海をモチーフに描いたもので、海の強く、深く、重い姿が、心に迫ってくるようだ。もう1点、渡辺洵さんの「虫の歌」は、画面からいろいろな物語が聞こえてきて、引き付けられた。

総じて、私の心に響いてきた作品は、暗い色をした絵が多かった。それは、審査にあたった上記の気持ちの反映なのかもしれない。その中で、篠原成美さんの「フラワーサーカス団」の明るくポップな絵は、〈元気を出そうよ〉と言っているようで、うれしかった。

彫刻は、自分が専門であるがためか、基準が厳しすぎる傾向になってしまったかもしれない。しかし多様性があり、力作も多くあったと印象を持った。

いわき市立美術館は、多くの現代美術のコレクションを持ち、全国的にみても質の高いことで有名である。そこに住む人々は、それらに触発され、自分自身の表現の中に自然にとり入れているように思えた。あとで制作者の年齢を見て、若い人たちのみならず、年齢の高い人たちも、新しい表現を自分のものにしている様は、美術館と市民の良好な関係を見た気がして、うれしくもあり、いわき市の美術愛好家の底力を感じた。

2012年2月8日

審査員 深 井 隆

(彫刻家・東京藝術大学教授)

第41回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	明日へ吹く風	大川 浩	三沢町
いわき市議会議長賞	昼夜来狐	木下 淑之	小名浜
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	悠久の刻	清水 ナミ子	山田町
《佳 作》			
いわき市文化協会会长賞	虫 の 歌	渡 辺 淳	勿来町
福島県報徳社賞	再 会	佐 藤 もと	常磐上湯長谷町
〃	淨	渡 辺 啓	四倉町
〃	透明な憂鬱B	山 本 伸 樹	田人町旅人
美術館友の会賞	再び旅人に	松 懋	平鎌田
有限会社トーカイ賞	海からの精霊	近 内 賢 寿	好間町中好間
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	鎮魂の祈り	江 尻 敏 昭	郷ヶ丘
有限会社平電子印刷所賞	フラワーサーカス団	篠 原 成 美	平南白土
椿 屋 賞	座 磯 船	今 泉 木 主	錦町
〃	防 波 堤 — 非日常的な時間 —	根 本 裕 之	平泉崎
昭 文 堂 賞	遺構一門	小 松 俊 介	茨城県つくば市吉瀬
〃	花 景	大 内 馥 子	金山町
画廊喫茶モナミ賞	3-11-父ちゃん一	平 子 貞 男	小川町上小川
ギャラリー磐城賞	赤い海(汚染水放出)	遠 藤 敏 親	鹿島町久保
アートスペース泉賞	アスファルト・ブロック(5)	斎 藤 嘉 平	勿来町
アートスペース エリコーナ賞	暮 色 蒼 然	谷 平 芳 樹	内郷高坂町
《特 別 賞》			
青少年(ギャラリー わづくりや)賞	起こさないように、そのまま	遠 藤 香	平下高久
青少年奨励(美術館友の会)賞	虫 の 歌	渡 辺 淳	勿来町

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

※青少年奨励賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

感謝 - 2013

講評にかえて

私は今でもいわき市立美術館の展示室で、当時の学芸員の皆さんと一緒に、深夜倒れ込むまで仕事をしている姿を夢で見ることがあります。いわき市にお世話をなったのは準備室時代を入れての3年5ヶ月。大地震も津波も放射能の恐怖も知らない、今から29年も前のことなのに、それはきっと、あの梁山泊のようないわき市立美術館の黎明期での修行が、今でも身体の根幹に生き続け、私を鼓舞し続けているということなのでしょうか。

私自身の美術の世界での出発点となった、いわき市立美術館の誇りは、美術館が生まれる前からの、「ヘンリー・ムーア展」に代表される市民主催の展覧会、そして、この42回目を迎えることになる「市民美術展」などに裏付けられた、長年の市民運動によって命を与えた美術館であったということでした。

若松光一郎先生はじめ、本当に多くの方々からご指導をいただきました。ですから、今回の思いがけない審査の依頼は、そうした方々を偲び、再びの感謝を捧げたいという想いとともに、あの日々、いわき市にあって美術館を市民の手によって生み出そうと奮闘した人々の情熱に対し、お前は今、いったい何に情熱をもって立ち向かっているのかという、原点回帰の自問の機会を与えられたものとして、お引き受けさせていただいたものもありました。そして、事実、懐かしい美術館の展示室の中にいて、若松先生が、北郷喜三郎先生が、松田松雄先生が、緑川宏樹先生が、「厳しく審査してくださいよ」と嬉しそうに、背後から語りかけてくるような錯覚に捉われながら、審査を進めることになりました。

いわき市長賞の久保木舞さんの「紡ぎ歩く」は繊細な紙粘土によるクラフトオブジェですが、軽やかでポップな造形とパステル調の彩色が寓意的な地図の上で溶け合い、その何気ない足跡に潜む、不思議な切なさまで湛えるすぐれた作品でした。「紡ぎ歩く」というタイトルも詩的な響きを持ち、作品の質感の重要な要素となっています。

議長賞の森二郎さんの「あの日の海を憶う。」は海に消えた命の記憶と自らの人生の記憶を静謐の青の

中に重ね合わせた、鎮魂の詩の形象といえるでしょう。記憶の深部に生き続けるであろうあの日の色、あの日の形、あの日の匂い、あの日の声、そして気配。永遠に忘れてならないものを記す地平を絵画と呼ぶならば、この作品はまさにその覚悟に対するひとつの答といえるかもしれません。

最も嬉しい若き才能との出会いのひとつが教育長賞、16才の大平遼さんの「少年」でした。解決不可能な事象として「3.11」に対峙する自画像でしょうか。戦争という不穏な怪物の前に立つ、あの松本峻介の「立てる像」(1942)を彷彿とさせる、もうひとつの「立てる像」。少年の武器はヨットパーカーとスケボーだけです。しかし、怒りを抑えながらも、不可能性を突破しようとする少年の決意を重く、そして嬉しく受け止めました。

また、文化協会会长賞の吉田重信さん、報徳社賞の荒川信子さん、小野重治さん、ダビさん、友の会賞の藤井直子さん、トーカイ賞の伊藤集三さん、箱崎美術広告社賞の渡辺八市さん、椿屋賞の桐生良勝さん、エリコーナ賞の堅田茂子さん、そして、もうひとりの高校生で青少年賞(ギャラリーわづくりや賞)の小野菜奈美さんをはじめ、多くの方々が無意識にも「3.11」をそれぞれの距離の中で見定め、抱き締め、解き放ち、一人一人が他者の命に触れるような筆触を持って、作品を仕上げていたことにも感銘を受けました。

出品者の方々に改めて勇気と覚悟をいただくことになった今回の審査でしたが、私の気持ちを一言で表すならば、やはり「感謝」という言葉しかないようと思われるのです。つまり、今こそ絵を描くこと、彫刻を作ることの意味を直観的に受け止め、先駆的な約束を果たすかのように制作を続けてこられた、いわき市の美術愛好家の方々の存在そのものに対する名状しがたい思い。それがまさに私の「感謝」という言葉の本意にほかならないのです。

どうか、これからもそれぞれの約束をそれぞれの思いの中で果たしていってください。私も見続けるという行為を通して、私の約束をなんとか果たしていきたいと思っています。今回は本当にありがとうございました。

2013年2月6日

審査員 南 嘉 宏
(美術評論家・女子美術大学教授)

第42回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	紡ぎ歩く	久保木 舞	郷ヶ丘
いわき市議会議長賞	あの日の海を憶う。	森 二郎	中央台
いわき市教育委員会教育長賞	少年	大 平 遼	平
《佳 作》			
いわき市文化協会会长賞	分水霊 檜葉町 2013.1.5	吉 田 重 信	平
福島県報徳社賞	祈	荒 川 信 子	平
〃	すいへいせん	小 野 重 治	金山町
〃	SUPER GRAVITY 2011	ダ ビ	好間町榎小屋
美術館友の会賞	求不得苦	藤 井 直 子	金山町
有限会社トーカイ賞	ある風景—13 (復興への祈り)	伊 藤 集 三	平下神谷
株式会社箱崎美術広告社賞	原 風 景	渡 辺 八 市	平中山
椿屋賞	エゴ・サーチによる自画像	竹 内 公 太	常磐湯本町
〃	Dubrovnik	桐 生 良 勝	石森
昭文堂賞	震災の爪痕	庄 司 重 夫	東田町
〃	顔面ミクロコスモス	宮 嶋 結 香	平
画廊喫茶モナミ賞	birth	難 波 立 子	遠野町入遠野
ギャラリー磐城賞	三崎公園	鈴 木 義 政	渡辺町上釜戸
アートスペース泉賞	朝日の当たる家	田 中 隆	小名浜大原
アートスペース エリコーナ賞	悲 想	堅 田 茂 子	平
《特 別 賞》			
青少年(ギャラリーわづくりや)賞	Threem	小 野 菜 奈 美	小名浜大原
青少年奨励(X)賞	少年	大 平 遼	平

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

※青少年奨励(X)賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

2013 審査にあたって

いわき駅で下車すると時雨に煙る緑深き山々、空に浮かぶ雲、真夏の強い光、そして通り抜ける風など、古より何も変わったように見えない美しい自然と日常が営まれていました。

3.11以来、初めて東北に来たのがこのいわきです。一度は行かなくてはと思いながら小事にかまけ、無為に時を過ごしていました。この度のいわき市民美術展覧会の審査の依頼は、私にとって思いもかけないものでしたが、この機会をいただき、東北に来ることも遅ればせながら少し果たすことができました。

いわき市民美術展覧会の方々と今まで全く面識がないのに、作品を通じて出会う緊張と楽しさでやってきました。

作品は震災の影響のあるものが多いのではないかと思っていましたが、意外に少なく、大変バラエティーに富んだ力作でした。すでに震災を忘れたのではなく、あの経験が、より自分らしい本物の作品を制作する方に向かわしたものを感じました。

いわき市長賞、松澤哲也さんの「車窓から6月」。力強いリアリティーのある作品です。梅雨の雨間に曇り空の裏から太陽が差し出した瞬間をとらえた景色で、前の2台の車の強い陰影と雨上がりで反射する路面。作品としては小ぶりで色数も少ないですが、作者がその時感じた情景と感情がうまくマッチしたものがストレートに伝わってきます。このような場面はスナップ写真のようになってしまいそうですが、荒削りの技術が技法に流されない上質のものにしています。

いわき市議会議長賞、杉本正春さんの「竜串海岸」。津波の象徴のように感じられる情景が明るく描かれていて、全体が超現実的な世界に見える

2013年7月24日

審査員 山 口 実
(画家・行動美術協会会員)

作品です。磯の岩の上に男女が震災に会った家族を捜しているように見えますが、画面から受けれる印象は乾いていて明るい。しかし磯遊びにしてはあまり楽しそうには見えない。あの時現場に遭遇した人々の受け止めきれない感情は、このような表現で仮想されるのかと思います。

いわき市教育委員会教育長賞は彫刻、平子貞男さんの「儘」。造形的に巧みなテラコッタで作った根源的な生命を感じる半身像です。目鼻も腕も省略されていることで、見る側にあえて表現しないところを喚起します。胴回りが太く腹を突き出して、そこに指で作ったと思われる縦線があり、まるで植物を思わせるかのように有機的に入っていて、焼成するときにできた黄色い土色と、煤の黒い色が絶妙にマッチしています。

青少年(ギャラリーわづくりや)賞、磯崎梨沙さんの「世界」。シルエットで描かれた少女と外の世界(宇宙)すべてをメルヘンチックに描いています。土星とそれにかかる梯子、そこを通過する猫のような動物、そしてクジラが小さな画面に上手に閉じ込められています。ロマンチックなイメージと生命の愛おしさがうまくマッチして楽しくなる作品です。

まだまだ感銘を受けた作品はたくさんありました。この辺りにさせていただきます。残念なことはわずかな時間で優劣を判断しなければならないというジレンマがあったことでしたが、このいわき市民美術展覧会のひたむきさと力をさまざまと見せていただきました。これを機会にますます良い作品を制作されることと市美展の発展を願っております。

最後に審査員に選んでくださった方々に感謝申し上げます。

第43回 絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	車窓から6月	松澤 哲也	平下神谷
いわき市議会議長賞	竜串海岸	杉本 正春	内郷高坂町
いわき市教育委員会教育長賞	儘	平子 貞男	小川町上小川
《佳 作》			
いわき市文化協会会长賞	つぼみ	横山 千晶	中央台
福島県報徳社賞	初めの一歩	木村 律子	平中神谷
〃	秋の譜	若林 喜代子	植田町
〃	仕立屋	阿部 君子	平鎌田
美術館友の会賞	CORROSION -'13- III	鈴木 儀一	中央台
有限会社トーカイ賞	ブティックの前で	大塚 多嘉子	平谷川瀬
株式会社箱崎美術広告社賞	2013・夏	斎藤 博英	常磐上湯長谷町
椿屋賞	淨	大内 重子	内郷内町
〃	漂流地	菅野 裕久	平鎌田
昭文堂賞	儘	平子 貞男	小川町上小川
〃	明日へ	古川 貴代美	植田町
画廊喫茶モナミ賞	小学校の校庭	庄司 重夫	東田町
ギャラリー磐城賞	霧のビューラン山	安藤 曜宏	高倉町
アートスペース泉賞	コンポジション	遠藤 義雄	好間町上好間
アートスペースエリコーナ賞	moss - grown	小松 俊介	つくば市吉瀬
《特 別 賞》			
青少年(ギャラリーわづくりや)賞	世界	磯崎 梨沙	平下神谷

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

※青少年奨励(X)賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。(43回展では該当なし)